

土質ボーリング柱状図（標準貫入試験）

調査名 砂防指定地内河川 鍋屋谷川 通常砂防事業に伴う測量・地質調査・設計業務委託（交付金） 一級河川 江の川水系 鍋屋谷川

事業名 または 工事名

調査目的及び調査対象 砂防 砂防

ボーリング名	Bor. No. 4		調査位置	広島県三次市栗屋町			北緯	34° 47' 45.6100"		
発注機関	広島県北部建設事務所			調査期間	2022年 1月 12日 ~ 2022年 1月 14日		東経	132° 49' 55.4969"		
調査業者名	主任技師			現場代理人	コア確定者		ボーリング責任者			
孔口標高	T.P. 206.14m	角	180° 上下 0°	方位	北 0° 西 270° 東 90° 南 180°	地盤勾配	水平0° 鉛直 90° 20°	使用機種	試錐機 東邦地下工機 D1-C48	
総削孔長	8.00m	度	0°	位				エンジン	ヤンマー NFD-12	ポンプ 東邦地下工機 BG-3C

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	現場土質名 (模様)	現場土質名	地盤材料の工学的分類	色調	相對密度	相對稠度	地質時代名	記述	孔内水位 / 測定月日	標準貫入試験					試料採取番号	採取方法	室内位置試験	削孔月日				
												深度-N値図		N値	100mmごとの打撃回数	50回の貫入量					自沈時の貫入量			
1	204.54	1.60		砂礫		暗褐	rd3		新生代第四紀 更新世	縦分はφ40mm以下の角礫からなる。細礫~中礫が多い。マトリクスは粘土混じり砂からなる。砂の粒径はやや粗粒に偏っている。6l=0.62mに無水攪り水位を認める。1mの貫入試料の含水はかなり高い。	0.10 0.00 0.00	11	1.15	3	5	3	11	300						
2	203.14	3.00		玉石混じり砂礫		暗褐	rd4		中生代白亜紀	玉石分はL=5~18cmで採取される。その他、岩片状のものも少なくない。マトリクスは細礫質の砂からなり、少量の細粒分を含む。貫入試料はほとんど礫分から構成される。含水は非常に高い。		31	2.15	17	7	7	31	300						
3	200.84	5.30		流紋岩		青灰				L=10~20cmの短柱状コア主体、まれに40cm超の柱状のものがある（あくまで局所的である）。風化程度は弱く、岩本来の色調が強い。岩片も硬質である。割れ目は高角のものも低角のものに二分され、強い酸化変色を伴う。明確な流紋構造は認めない。【C級、軟岩IIに相当する（一部は中硬岩）】			4.00	貫入不能		50	0							
4	200.04	6.10		風化流紋岩		灰				割れ目が多く、少し風化が強まる。岩片状コアを主体とし、5.5~8.7m間は角礫状に砕けている。【C級、軟岩IIに相当する】			6.00	貫入不能		50	0							
5	199.29	6.85		流紋岩		青灰				クサビ形の短柱状コアからなる。風化程度は弱い。6.4m付近の劣化程度がやや強い。【C級、軟岩IIに相当する】			7.00	貫入不能		50	0							
6	198.54	7.60		風化流紋岩		淡緑灰				割れ目、ヘアークラックが多く、クサビ形~岩片状コアが主体をなす。岩質も少し脆くなっている。【C級、軟岩IIに相当する】			8.00	貫入不能		50	0							
7	198.14	8.00		流紋岩		青灰				やや急激に風化が強まる。コアはL=15cm以上の柱状をなす。割れ目多いは岩片化する。岩片は硬質である。【C級、軟岩IIに相当する】			8.00	貫入不能		50	0							